

日本産鳥類記録リスト (8)

日本産鳥類記録委員会*

日本産鳥類記録委員会では活動の一環として、記録が極端に少ない種について、引用可能な文献として公表されたものの調査・収集・整理を行い「日本産鳥類記録リスト」として随時学会誌を通じて公表を行っています。今回はセキレイ科、ヒヨドリ科、モズ科の5種についての調査結果を報告します。なお、この報告は学会による記録公認を意味するものではなく、掲載されている記録の妥当性については未検討であることに注意してください。また、このリスト内で使用される学名や和名は、日本鳥学会が今後これを採用することを意味しておらず、基本的には引用した文献に使用されていたものを使用しています。リストに掲載されていない文献記録をご存知の方は、記録委員会にお知らせください。また、未発表の記録をお持ちの方は、ぜひ、引用可能な文献としての公表をお願いいたします。このリストの趣旨についての詳細は日本鳥学会誌 51(2): 132-133. 「日本産鳥類記録リスト」を参照してください。委員会が過去に公表したリストや活動報告は、学会のホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/osj/>) にて閲覧可能なので、そちらもご覧ください。

50. ムジタヒバリ *Anthus campestris* (表1)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず、Appendix B 検討中の種・亜種にも含まれていない。本委員会の調査により、文献上1例の記録が確認された(表1)。

記録1(宇山 2004)は、沖縄県与那国島で記録されたもので、記録時の状況と記録された個体の形態、日本初記録の種であることなどが掲載されているが、同定の根拠については記述がない。宇山(2004)によれば、同年4月16日および4月17日にも同種と思われる個体が他の観察者により確認されている。

表1. ムジタヒバリ *Anthus campestris*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載	撮影者	出典
1	2004.4.19	沖縄県	与那国島	—	—	1	宇山大樹	観察	—	—	1

—: 記述なし・掲載なし

引用文献(文献番号は、表中の出典欄の数字に対応)

1. 宇山大樹(2004) 与那国島・春の鳥類 III 2004年3月9日~5月7日・5月21日~31日の観察記録概要版. Hobby's World, 東京.

51. マキバタヒバリ *Anthus pratensis* (表2)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず、Appendix B 検討中の種・亜種にも含まれていない。本委員会の調査により、文献上9例の記録が確認された(表2)。

記録1(五百沢・岡部 1997)は、福岡県福岡市で記録されたもので、記録時の状況や記録された個体の行動、形態、測定値、捕獲および標識が行われたこと、日本初記録であることなどが記述されているが、同定の根拠については明記されていない。標識放鳥時の記録は、山階鳥類研究所(1998)にも掲載されており、性不明・第1回冬羽であったこと、岡部海都氏と増田智久氏により標識放鳥されたことなどが記述されている。また、記録された個体の形態や同定の根拠については、森岡(1999)にも詳細が掲載されている。この記録は、パーダー編集部(1998)、五百沢ら(2000, 2004)、真木・大西(2000)にも写真とともに掲載されている。

記録2(髙原ら 2000)は、沖縄県沖縄島で記録されたもので、記録された個体について「1998年12月に沖縄野鳥研究会の仲宗根励氏によって金武町並里で1個体が観察された」との記述のみが掲載されている。

記録3(髙原ら 2000)は、沖縄県渡嘉敷島で記録されたもので、記録された個体について「1999年1月22日には沖縄野鳥研究会の金田昌士氏らによって、慶良間諸島の渡嘉敷島で1個体観察されている」との記述のみが掲載されている。

記録4(沖縄野鳥研究会 2002)は、沖縄県沖縄島で記録されたもので、記録年月日、場所、記録者のみが写真のキャプションとして掲載されている。

表2. マキバタヒバリ *Anthus pratensis*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1997.1.9-4.7	福岡県	福岡市西区 今津	第1回冬羽- 第1回夏羽	不明	1	岡部海都, 増田智久	観察, 撮影, 捕獲, 標識	カラー6, モノクロ1, 岡部海都	3	1, 4, 5, 6, 7, 13
2	D 1998.12	沖縄県	金武町並里	-	-	1	仲宗根励	観察	-	11	
3	D 1999.1.22	沖縄県	渡嘉敷島	-	-	1	金田昌士	観察, 撮影	モノクロ1, 金田昌士	11	
4	D 1999.2.5	沖縄県	金武町	-	-	1	比嘉邦昭	観察, 撮影	カラー1, 比嘉邦昭	10	
5	2001.11.8-11	石川県	輪島市舳倉島	-	-	1	真木広造, 橋 映州	観察, 撮影	カラー1, 橋 映州	8	
6	D 2002.2	沖縄県	金武町徳首川	-	-	1	橋 映州	撮影	モノクロ1	12	
7	D 2002.10.17	石川県	輪島市舳倉島	-	-	1	橋 映州	-	-	9	
8	2002.12.28-31	沖縄県	与那国島東牧場	-	-	5	-	観察	-	12	
9	2006.12.10	鹿児島県	龍郷町秋名	第1回冬羽2個体, 成鳥冬羽1個体	-	3	後藤義仁	観察, 撮影	カラー4	2	

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 記録年月日, 記録者など)のみ

記録5(日本野鳥の会石川支部 2002)は, 石川県舳倉島で記録されたもので, 記録された個体の形態, 鳴き声, 同定の根拠などの記述が掲載されている.

記録6(高原ら 2003)は, 沖縄県沖縄島で記録されたもので, 記録された個体について「2002年2月に金武町億首川沿いの水田での観察記録が知られている」との記述のみが掲載されている.

記録7(日本野鳥の会石川支部 2004)は, 石川県舳倉島で記録されたもので, 記録年月日, 場所, 個体数, 記録者のみが掲載されている.

記録8(高原ら 2003)は, 沖縄県と那国島で記録されたもので, 記録年月日, 場所, 個体数, 記録された個体の形態, 鳴き声とそれらを基に「本種と判断された」との記述が掲載されている.

記録9(後藤 2007)は, 鹿児島県奄美大島で記録されたもので, 記録時の状況や記録された個体の形態的特徴, 個体差についての記述が掲載されているが, 同定の根拠については明記されていない.

以上の他, 高原ら(2003)には「金武町億首川沿いの水田地域では1998年から2002年まで4年間連続的に渡来している」との記述があるが, 2000年と2001年については, 該当する記録の詳細を掲載した他の文献を確認できなかったため, 参考として挙げるにとどめる. また, 後藤(2007)には, 過去の記録として, 2000年および2006年に沖縄県, 2003年に島根県で本種が記録された事が記述されているが, これも, 高原ら(2003)の記録と同様の理由で参考として挙げるにとどめる.

引用文献(文献番号は, 表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. バーダー編集部(1998)写真集日本の鳥1997. 文一総合出版, 東京.
2. 後藤義仁(2007)マキバタヒバリ観察記録. あまみやましぎ(69): 18-21.
3. 五百沢日丸・岡部海都(1997)その鳥にピピッときたらタヒバリ類. Birder 11(9): 66-77.
4. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2000)日本の鳥550 山野の鳥. 文一総合出版, 東京.
5. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2004)日本の鳥550 山野の鳥 増補改訂版. 文一総合出版, 東京.
6. 真木広造・大西敏一(2000)決定版 日本の野鳥590. 平凡社, 東京.
7. 森岡照明(1999)新しい識別の試み 第22回 今津のマキバタヒバリ. Birder 13(2): 62-65, 103.
8. 日本野鳥の会石川支部(2002)石川野鳥年鑑2001. 日本野鳥の会石川支部, 金沢.
9. 日本野鳥の会石川支部(2004)石川野鳥年鑑2002.

表3. クロヒヨドリ *Hypsipetes madagascariensis*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典
1	2004.3.23	沖縄県	与那国島	—	—	1	宇山大樹	観察	—	1

—: 記述なし・掲載なし

- 日本野鳥の会石川支部。
 10. 沖縄野鳥研究会 (2002) 沖縄の野鳥. 新報出版, 那覇.
 11. 高原建二・池長裕史・金城道男・渡久地豊・金城輝雄・庄山 守 (2000) 沖縄県内において野外観察や傷病鳥の保護及び博物館収蔵標本等により確認された興味深い鳥類の記録について. 沖縄県立博物館紀要 (26): 27-46.
 12. 高原建二・砂川栄喜・大城亀信・柳澤紀夫・天野洋祐・土方秀之 (2003) 沖縄県内における最近の希少な鳥類の渡来記録について. 南島文化 (25): 33-46.
 13. 山階鳥類研究所 (1998) 平成9年度環境庁委託調査鳥類標識調査報告書 (鳥類観測ステーション運営). 山階鳥類研究所, 我孫子.

52. クロヒヨドリ *Hypsipetes madagascariensis* (表3)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず, Appendix B 検討中の種・亜種にも含まれていない. 本委員会の調査により, 文献上1例の記録が確認された(表3).

記録1(宇山 2004)は, 沖縄県与那国島で記録されたもので, 記録時の状況と記録された個体の形態, 与那国島初記録の種であることなどが掲載されているが, 同定の根拠については記述がない.

引用文献(文献番号は, 表中の出典欄の数字に対応)

1. 宇山大樹 (2004) 与那国島・春の鳥類 III 2004年3月9日~5月7日・5月21日~31日の観察記録概要版. Hobby's World, 東京.

53. セアカモズ *Lanius collurio* (表4)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず, Appendix B 検討中の種・亜種にも含まれていない. 本委員会の調査により, 文献上2例の記録が確認された(表4).

記録1(森岡 1998)は, 石川県舩倉島で記録されたもので, 記録年月日, 場所, 記録者, 記録された個体の形態, 同定の根拠と「セアカモズの

第1回冬羽と見なすのがもっとも矛盾がない」との結論が掲載されており, 写真のキャプションとして「おそらくセアカモズ第1回冬羽」との記述も掲載されている. この記録は真木・大西 (2000) にも掲載されている. なお, 日本野鳥の会石川支部 (1998) は, 石川県内で記録された本種を「同定に疑問があるため」という理由で参考種として扱っている. 一方, 橘 (1999) は, 舩倉鳥類リストにおいて, 本種を日本鳥類目録第6版収録予定外の種として, リストの本文から外して表示しているが, 参考種扱いにはしていない.

記録2(真木・大西 2000)は, 沖縄県与那国島で記録されたもので「1997年2月に与那国島で本種と考えられる記録がある」との記述のみが掲載されている.

引用文献(文献番号は, 表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. 真木広造・大西敏一 (2000) 決定版 日本の野鳥 590. 平凡社, 東京.
2. 森岡照明 (1998) 新しい識別の試み 第9回 舩倉島で観察されたモズ類. Birder 12(1): 66-69, 105.
3. 日本野鳥の会石川支部 (1998) 石川県の鳥類. 石川県環境安全部自然保護課, 金沢.
4. 橘 映州 (1999) 舩倉の鳥たち—能登半島沖50km—. 橋本確文堂企画出版室, 金沢.

54. オリイモズ *Lanius isabellinus* (表5)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず, Appendix B 検討中の種・亜種にも含まれていない. 本委員会の調査により, 文献上4例の記録が確認された(表5).

記録1(五百沢ら 2004)は, 沖縄県沖縄島にて記録されたもので, 写真のキャプションとして種名, 記録年月日, 場所, 記録者, 記録された個体の年齢, 性別の他「写真の個体は, 色彩から一番東の亜種 *speculigerus* とと思われる」との記述が掲載されている.

記録2(五百沢ら 2004)は, 沖縄県沖縄島で記録されたもので, 写真のキャプションとして種名, 記録年月日, 場所, 記録者, 記録された個体

表4. セアカモズ *Lanius collurio*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1994.11.4	石川県	舩倉島	第1回冬羽	—	1	土橋信夫	観察, 撮影	カラー2, 土橋信夫	2	1, 3, 4
2	1997.2	沖縄県	与那国島	—	—	—	—	—	—	1	—

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 記録年月など)のみ

表5. オリイモズ *Lanius isabellinus*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	2003.2.28	沖縄県	国頭村	第1回冬羽?	オス	1	尾崎雄二	撮影	カラー1, 尾崎雄二	4	3
2	2003.3.2	沖縄県	国頭村	第1回冬羽?	オス	1	尾崎雄二	撮影	カラー1, 尾崎雄二	4	3
3	2004.12.5	沖縄県	国頭郡国頭村	—	オス	1	土方秀行	撮影	カラー1, 尾崎雄二	1	3
4	2005.1.9	宮崎県	児湯郡新富町	—	—	1	上野信一郎	撮影	カラー1, 尾崎雄二	6	—

—: 記述なし・掲載なし

の年齢, 性別の他「嘴の基部は淡褐色で, 胸脇に褐色の波状斑がわずかに見られることから, 第1回冬羽と思われる」との記述が掲載されている。なお, 五百沢ら(2004)には, 「日本では, 2003年2~4月に沖縄島で記録がある」との記述が掲載されているが, 上記記録1および記録2が同一個体の記録であるか否かについては明記されていないので, ここでは個別の記録として扱った。

記録3(バーダー編集部 2005)は, 沖縄県沖縄島で記録されたもので, 種名, 記録月日, 場所, 記録者と森岡照明氏による解説が掲載されている。この解説の中で森岡氏は, 写真から読み取れる個体の形態を基に本記録個体をオリイモズの「亜種オリイモズ *L. i. isabellinus* (旧亜種名 *speculigerus*) に当てはまる」としているが, 「確実な同定には各部の測定値, 翼式, 尾の構造を確かめる必要がある」との記述も掲載している(バーダー編集部 2005)。なお, 初野(2005)には「オリイモズらしい個体が2003~2004年, 沖縄県で記録されている」との記述が掲載されている。

記録4(バーダー編集部 2006)は, 宮崎県児湯郡で記録されたもので, 種名, 記録月日, 場所, 記録者と森岡照明氏による解説が掲載されている。この解説の中で森岡氏は, 写真から読み取れる個体の形態を基に「本個体は第1回冬羽だと推測する」とし, 「オリイモズであるならば」と前置きした上で「亜種 *isabellinus* (*speculigerus* はこれのシノニム)であろう」としているが, 本種の日本での記録について「沖縄県と宮崎県に出現したとされるが, 羽色が合わない, 最外側尾羽が短いなど矛盾点があり, 詳細な検討を要すると考える」との記述も掲載している(バーダー編集部 2006)。

以上の他, 五百沢ら(2004)は「石川県舩倉島と山形県飛島で本種の幼鳥と思われる個体が観察, 撮影された」と記述しているが, 記録年月日などの詳細が不明であり, これに該当する記録を掲載した他の文献も確認できないので, 参考として挙げるにとどめる。なお, 本種の和名について, 初野(2005)は「オリイモズ」の他に括弧付きで「サバクセアカモズ」を並記している。

引用文献(文献番号は, 表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. バーダー編集部(2005)写真集日本の鳥2004. 文一総合出版, 東京.
2. バーダー編集部(2006)写真集日本の鳥2005. 文一総合出版, 東京.
3. 初野 謙(2005)決定版! 日本のモズ大図鑑.

Birder 19(10): 14-15 .

4. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2004) 日本の鳥
550 山野の鳥 増補改訂版．文一総合出版，東京．

この報告をまとめるにあたり，記録内容の確認
などに協力していただきました石本賢治氏，岩田
篤志氏，川口 敏氏，古園由香氏，森 茂晃氏，

村上 亮氏，髙原建二氏，豊島立身氏に心より，
お礼申し上げます．

* 日本産鳥類記録委員会：平岡 考・梶田
学・池長裕史・亀谷辰朗・金井 裕・川路則
友・西海 功・柳澤紀夫